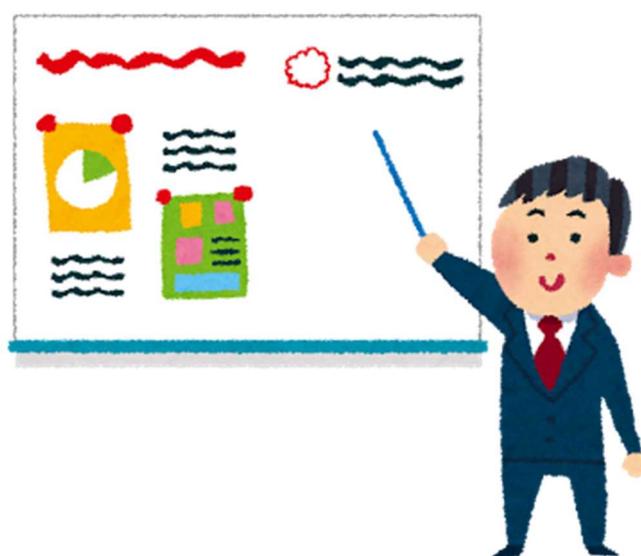


令和5年度 大子町の財務書類について



大 子 町

(担当 財政課)



－ 目 次 －

| | |
|----------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| ・ 地方公会計制度の概要 | |
| ・ 決算書と財務書類ではどう違う？ | |
| ・ 太子町のこれまでの取組み | |
| ・ 一般会計等・全体会計財務書類作成について | |
| ・ 連結会計財務書類作成について | |
| 【一般会計等の概要】 | |
| 令和5年度太子町財務書類（総括）..... | 4 |
| 1. 貸借対照表 | 5 |
| 2. 行政コスト計算書 | 7 |
| 3. 純資産変動計算書 | 9 |
| 4. 資金収支計算書 | 10 |
| 令和5年度決算 町民一人あたりの財務書類 | 11 |
| 【資料編】 | |
| 一般会計等財務書類 | 12 |
| 全体財務書類 | 23 |
| 連結財務書類 | 31 |



はじめに

【地方公会計制度の概要】

財政の透明性を高め、住民に対する説明責任をより適切に果たすとともに、財政の効率化・適正化を図ることを目的として、地方公会計の整備（財務書類の作成・公表）は全国的に進められてきました。

財務書類（財務4表）とは、次の4つの表を言います。

- ・貸借対照表（BS、バランスシート）
- ・行政コスト計算書（PL）
- ・純資産変動計算書（NW）
- ・資金収支計算書（CF、キャッシュフロー）

表の内容については、P5以降で簡単に説明をしていきます。

【決算書と財務書類ではどう違う？】

地方公共団体の会計は予算の適正・確実な執行を行うため、現金の出入りのみに着目した「現金主義・単式簿記」を採用していますが、1年間に「使ったお金」と「入ったお金」が明確にわかる反面、この現金主義には、

現金が発生しない(目に見えない)取引は記録されない！

という欠点があります。決算書では「将来に引き継げる資産はどれくらいあるの？」「今の世代と将来の世代で、負担は公平なの？」といった情報が見えにくかったのです。

その欠点を補うため、財務書類では企業会計が多く採用している「発生主義・複式簿記」を用います。営利を目的とする企業は、経済活動の成果を表す「収益」と、それを得るために費やされた「費用」を厳密に対応づけ、各会計期間の経営戦績である「利益」を算定します。また、減価償却や各種引当金（将来の特定の支出に備えてあらかじめ準備しておく見積金額）など、現金主義では見えにくいコストを認識できるため、地方公会計制度においてはこの企業会計的な手法を活用することが求められています。

【大子町のこれまでの取組み】

大子町では平成12年度決算から企業会計的手法を導入し、平成20年度から平成27年度までは、国の示す「総務省方式改訂モデル」による財務書類を作成・公表してきました。

また、平成27年1月に総務省より、団体間の比較可能性の確保や、固定資産台帳の整備不十分等の課題に対応するため「統一的な基準」が示されました。全ての地方公共団体を対象に作成基準を統一しており、大子町でも平成28年度分からこの基準に基づいて固定資産台帳を整備し、財務書類を作成・公表しています。



一般会計等・全体会計財務書類作成について

●対象となる会計の範囲

【一般会計等・全体会計 会計単位一覧（令和5年度）】

| | | 会計名称 |
|--------------|-------|-------------------|
| 全体 会 計 | 一般会計等 | 一般会計 |
| | 特別会計 | 国民健康保険事業特別会計 |
| | | 後期高齢者医療特別会計 |
| | | 介護保険特別会計 |
| | | 介護サービス事業特別会計 |
| | | 浄化槽整備事業特別会計 |
| | | 水道事業会計（地方公営企業法適用） |

●資産計上の判断基準

建物・工作物・・・単位あたり 60 万円基準

（税法における「資本的支出と修繕費」の区分基準を採用）

物品・・・・・・・・・・単位あたり 50 万円基準（重要物品）

●連結処理について

一般会計等の 1 会計、全体会計の 6 会計を合算した後、各会計間で行われた資金の繰出し、繰入れ、出資等の内部取引を相殺消去しています。



連結会計財務書類作成について

●対象となる会計の範囲

連結対象法人等の決定に際し、以下について考慮しています。

- ① 一部事務組合・広域連合については、統一的な基準においては報告主体として組合自らが財務書類を作成することとなっており、連結対象となる一部事務組合等より報告を受けた財務書類にて連結を行っています。
- ② 第三セクター等は、基本的に出資比率が 50%超の場合を連結対象としていますが、50%以下の場合は実質的主導的立場にあるかどうかによって、連結の対象とするかどうかを慎重に検討しています。

以上の検討の結果、全体会計以外の連結対象団体・法人を以下のとおりとしています。

【連結対象団体・法人（令和5年度）】

| | | 名 称 | 令和5年度 比例連結割合 (出資割合) | 増減 | 備考 |
|------------------|-----------------------------------------------------|----------------|---------------------------|----------------|------|
| 連 結 会 計 | 一 部 事 務 組 合 ・ 広 域 連 合 | 茨城県市町村総合事務組合 | 一般会計等 2.16% 特別会計 3.39% | 0.02% 0.84% | 比例連結 |
| | | 茨城県後期高齢者医療広域連合 | 0.72% | ▲0.05% | 比例連結 |
| | | 茨城租税債権管理機構 | 0.64% | ▲0.01% | 比例連結 |
| 計 | 第 三 セ ク タ ー 等 | 大子町振興公社 | — | — | 全部連結 |
| | | 大子町特産品流通公社 | — | — | 全部連結 |

●個別財務書類の作成

連結対象団体から決算資料等を入手し、財務書類作成に必要な情報を収集しました。その上で当年度の個別の財務書類を一般会計等に準じて作成しています。

●純計処理と内部取引相殺

連結団体グループの単純合算と債権債務、内部取引高の消去を行っています。

令和5年度 大子町財務書類（総括）

| | |
|-------|-------------------------------------------------------------------|
| 一般会計等 | 一般会計 |
| 全体会計 | 水道事業会計 浄化槽整備事業特別会計 国民健康保険事業特別会計 後期高齢者医療特別会計 介護保険特別会計 介護サービス事業特別会計 |
| 連結会計 | 茨城県市町村総合事務組合 茨城租税債権管理機構 茨城県後期高齢者医療広域連合 大子町振興公社 大子町特産品流通公社 |

貸借対照表

| | 資産の部 | | | 負債の部 | | |
|---------------|---------------|---------------|---------------|------------------|---------------|---------------|
| | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| 1 固定資産 | 37,490 | 41,235 | 41,376 | 13,108 | 15,438 | 15,439 |
| 有形固定資産 | 33,897 | 38,257 | 38,355 | 地方債等 | 9,964 | 11,198 |
| 事業用資産 | 18,229 | 18,229 | 18,323 | 長期未払金 | | |
| インフラ資産 | 15,282 | 19,266 | 19,266 | 引当金 | 3,118 | 3,544 |
| 物品 | 387 | 763 | 766 | その他固定負債 | 26 | 695 |
| 無形固定資産 | 59 | 59 | 59 | 2 流動負債 | 1,329 | 1,615 |
| 投資その他の資産 | 3,534 | 2,919 | 2,962 | 1年内償還予定地方債等 | 1,150 | 1,261 |
| 投資及び出資金 | 1,207 | 57 | 55 | 未払金及び未払費用 | | 159 |
| 投資損失引当金 | | | | 前受金及び前受収益 | | 1 |
| 長期延滞債権 | 212 | 251 | 252 | 賞与等引当金 | 129 | 145 |
| 長期貸付金 | 35 | 35 | 35 | 預り金 | 49 | 58 |
| 基金 | 2,087 | 2,588 | 2,632 | その他流動負債 | | 4 |
| 徴収不能引当金 | -7 | -12 | -12 | 負債合計 | 14,436 | 17,053 |
| その他投資その他の資産 | | | | 純資産の部 | | |
| 2 流動資産 | 3,104 | 4,165 | 4,431 | 固定資産等形成分 | 39,120 | 42,865 |
| 現金預金 | 1,450 | 2,418 | 2,542 | 余剰分(不足分) | -12,962 | -14,518 |
| 未収金 | 26 | 98 | 106 | 他団体出資等分 | | |
| 短期貸付金 | | | | 純資産合計 | 26,159 | 28,347 |
| 基金 | 1,630 | 1,630 | 1,735 | 負債及び純資産合計 | 40,595 | 45,400 |
| 棚卸資産 | | 25 | 38 | | | |
| 徴収不能引当金 | -1 | -6 | -6 | | | |
| その他流動資産 | | | 16 | | | |
| 資産合計 | 40,595 | 45,400 | 45,807 | | | |

※現金預金には歳計外現金(預り金)を含むため、資金収支計算書の残高とは完全に一致しません

行政コスト計算書

| | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
|----------------------|--------------|---------------|---------------|
| 経常費用 | 9,535 | 14,261 | 17,015 |
| 業務費用 | 6,615 | 7,487 | 8,173 |
| ① 人件費 | 1,931 | 2,201 | 2,562 |
| ② 物件費等 | 4,601 | 5,097 | 5,330 |
| (うち、減価償却費) | (1,574) | (1,753) | (1,758) |
| ③ その他の業務費用 | 83 | 189 | 281 |
| 移転費用 | 2,920 | 6,774 | 8,842 |
| ① 補助金等 | 1,327 | 5,890 | 7,954 |
| ② 社会保障給付 | 865 | 876 | 876 |
| ③ 他会計への繰出金 | 722 | | |
| ④ その他 | 6 | 7 | 12 |
| 経常収益 | 645 | 1,051 | 1,587 |
| ① 使用料及び手数料 | 444 | 838 | 842 |
| ② その他 | 200 | 213 | 745 |
| 純経常行政コスト | 8,890 | 13,210 | 15,427 |
| 臨時損失 | 336 | 337 | 337 |
| 臨時利益 | 2 | 3 | 3 |
| 純経常費用(純行政コスト) | 9,224 | 13,544 | 15,761 |

純資産変動計算書

| | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
|----------------|---------------|---------------|---------------|
| 期首純資産残高 | 25,293 | 27,468 | 27,813 |
| 純行政コスト(△) | -9,224 | -13,544 | -15,761 |
| 財源 | 10,094 | 14,428 | 16,613 |
| 税収等 | 6,748 | 8,445 | 9,512 |
| 国県等補助金 | 3,346 | 5,983 | 7,101 |
| 本年度差額 | 870 | 884 | 852 |
| 固定資産等の変動(内部変動) | | | |
| 有形固定資産等の増加 | | | |
| 有形固定資産等の減少 | | | |
| 貸付金・基金等の増加 | | | |
| 貸付金・基金等の減少 | | | |
| 資産評価差額 | | | |
| 無償所管換等 | - | | |
| 他団体出資等分の増加 | | | |
| 他団体出資等分の減少 | | | |
| 比例連結割合変更に伴う差額 | | | -1 |
| その他 | -5 | -5 | -5 |
| 当期変動額 | 865 | 879 | 846 |
| 期末純資産残高 | 26,159 | 28,347 | 28,660 |

資金収支計算書

| | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
|----------------------|---------------|---------------|---------------|
| 1 業務活動収支 | 1,847 | 2,063 | 2,022 |
| (1) 業務支出 | 8,335 | 12,829 | 15,581 |
| ① 業務費用支出 | 5,415 | 6,055 | 6,739 |
| (うち、支払利息支出) | (32) | (43) | (174) |
| ② 移転費用支出 | 2,920 | 6,774 | 8,842 |
| (2) 業務収入 | 10,283 | 14,993 | 17,704 |
| ① 税収等収入 | 6,741 | 8,427 | 9,494 |
| ② 国県等補助金収入 | 2,898 | 5,493 | 6,611 |
| ③ 使用料及び手数料収入 | 445 | 851 | 855 |
| ④ その他の収入 | 199 | 223 | 744 |
| (3) 臨時支出 | 101 | 102 | 102 |
| (4) 臨時収入 | | | |
| 2 投資活動収支 | -1,803 | -2,044 | -2,059 |
| (1) 投資活動支出 | 2,675 | 2,987 | 3,023 |
| ① 公共施設等整備費支出 | 2,153 | 2,426 | 2,439 |
| ② 基金積立金支出 | 466 | 536 | 558 |
| ③ その他 | 56 | 25 | 25 |
| (2) 投資活動収入 | 872 | 943 | 963 |
| ① 国県等補助金収入 | 448 | 513 | 513 |
| ② 基金取崩収入 | 415 | 415 | 435 |
| ③ その他 | 8 | 15 | 15 |
| 3 財務活動収支 | -188 | -195 | -190 |
| (1) 財務活動支出 | 1,106 | 1,215 | 1,214 |
| ① 地方債等償還支出 | 1,099 | 1,207 | 1,207 |
| ② その他の支出 | 8 | 8 | 7 |
| (2) 財務活動収入 | 919 | 1,020 | 1,025 |
| ① 地方債等発行収入 | 919 | 1,020 | 1,020 |
| ② その他の収入 | | | 4 |
| 本年度資金収支額 | -144 | -176 | -227 |
| 前年度末資金残高 | 1,545 | 2,544 | 2,726 |
| 比例連結割合変更に伴う差額 | | | -6 |
| 本年度末資金残高 | 1,401 | 2,368 | 2,493 |

※現金預金には歳計外現金(預り金)を含むため、資金収支計算書の残高とは完全に一致しません

一般会計等の概要

※金額は総括の百万円単位に合わせているため、端数処理の都合上内訳と計が一致しない箇所があります。

1 貸借対照表

(1) 貸借対照表とは

会計年度末（基準日）時点で、町（町民）が持っているすべての財産（資産）と、その資産がどのような財源（負債・純資産）で賄われているのかを対照表で示したものです。

貸借対照表の見方

| 貸借対照表 (BS) | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[資産]</p> <p>固定資産 有形固定資産 インフラ資産 事業用資産 投資その他の資産</p> <p>流動資産 現金預金、基金など</p> | <p>[負債] 将来世代が負担するもの</p> <p>固定負債 (地方債など) 流動負債 (賞与引当金など)</p> <p>144 億 3,600 万円</p> <hr/> <p>[純資産] 将来世代に引き継ぐ資産で、現世代までで負担を済ませたもの [資産] - [負債]</p> <p>固定資産等形成分 余剰（不足）分</p> <p>261 億 5,900 万円</p> |
| 計 405 億 9,500 万円 | 計 405 億 9,500 万円 |

令和5年度貸借対照表の概要

【資産】 405 億 9,500 万円（前年度比 5 億 2,700 万円）

「固定資産」は、資産の取得（し尿処理施設建設事業、大子町立学校給食センター防災対応型炊飯センター建設事業等）が減価償却等による価値減少分を上回ったこと等により 7 億 5,700 万円増加しました。また、「流動資産」は現金預金の減少により 2 億 3,000 万円減少しました。

※減価償却・・・固定資産で長期間使用することで劣化したり性能が落ちたりするものは、取得した年度に全額まとめて費用とするのではなく、何年かに分けて少しずつ価値を減らしていくというもの

【負債】 144 億 3,600 万円（前年度比 ▲3 億 3,800 万円）

「固定負債」のうち地方債について、起債額を償還額が上回ったことにより、2 億 3,200 万円減少しました。

【純資産】 261 億 5,900 万円（前年度比 8 億 6,500 万円）

資産の増加、負債の減少により、総資産と負債の差額である純資産は増加しました。

一般会計等の概要

※金額は総括の百万円単位に合わせているため、端数処理の都合上内訳と計が一致しない箇所があります。

(2) 貸借対照表を活用した財務分析

★純資産比率 64.4% (前年度比 1.3% 類似団体平均 75.3%)

将来世代に引き継ぐ資産のうち、借金の返済を必要としない資産の割合

- 比率が高いほど将来の負担は軽く、財政状況が健全と言える
- 類似団体平均と比べ低い傾向

★将来世代負担比率 24.0% (前年度比 ▲0.2% 類似団体平均 16.3%)

社会基盤資本について、将来の世代によって負担しなければならない割合

- 公共資産の整備に当たって、(将来世代が返さなければならない)借金による負担割合はどれだけあるか
- 県内平均と比べやや高い水準

★有形固定資産減価償却率(資産老朽化比率) 61.1% (前年度比 ▲0.8%)

将来世代に残る有形固定資産がどのくらい老朽化しているか

- 60%を超えると資産の老朽化が進んでいると言える
 - └ 資産区分別では、事業用資産(庁舎や小中学校など)が62.3%、インフラ資産が60.0%で、事業用資産の老朽化が比較的進んでいる
- 類似団体平均値が66.6%であることから、比較すると低い水準

★歳入額対資産比率 2.98年 (前年度比 ▲0.05年 類似団体平均 3.63年)

社会基盤資本の整備度合い

- これまでに形成され蓄積されている資産が、当該年度の歳入総額の何年分に相当するか
- 資産総額と歳入総額のバランスを見る指標
 - └ 経年で比較し、どちらかが急激に増減しなければ問題がない

※社会基盤資本…道路、橋、学校、公園など

一般会計等の概要

※金額は総括の百万円単位に合わせているため、端数処理の都合上内訳と計が一致しない箇所があります。

2 行政コスト計算書

(1) 行政コスト計算書とは

資産の形成に結びつかない行政活動の「費用」と「収益」を対比させた表です。

行政コスト計算書の見方

| 行政コスト計算書 (PL) | |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| [費用] 行政サービスを行うために使った1年間のコスト | [経常費用] 95億3,500万円 |
| | 業務費用 66億1,500万円 ①人件費 ②物件費等 ③その他の業務費用 |
| | 移転費用 29億2,000万円 ①補助金等 ②社会保障給付 ③他会計繰出金 ④その他 |
| [収益] 行政サービスの対価として得られる収入 | [経常収益] 6億4,500万円 |
| | ①使用料・手数料 ②その他 |
| [純経常行政コスト] [経常費用]-[経常収益] 資産形成に結びつかない経常的な活動について、税収等でまかなうべきコスト | [純経常行政コスト] 88億9,000万円 |
| | [臨時損失(費用)] 3億3,600万円 |
| | [臨時利益(収益)] 200万円 |
| | 純経常費用(純行政コスト) 92億2,400万円 |

[純行政コスト]

純経常行政コストから臨時損失を差し引き、臨時利益を加算した額

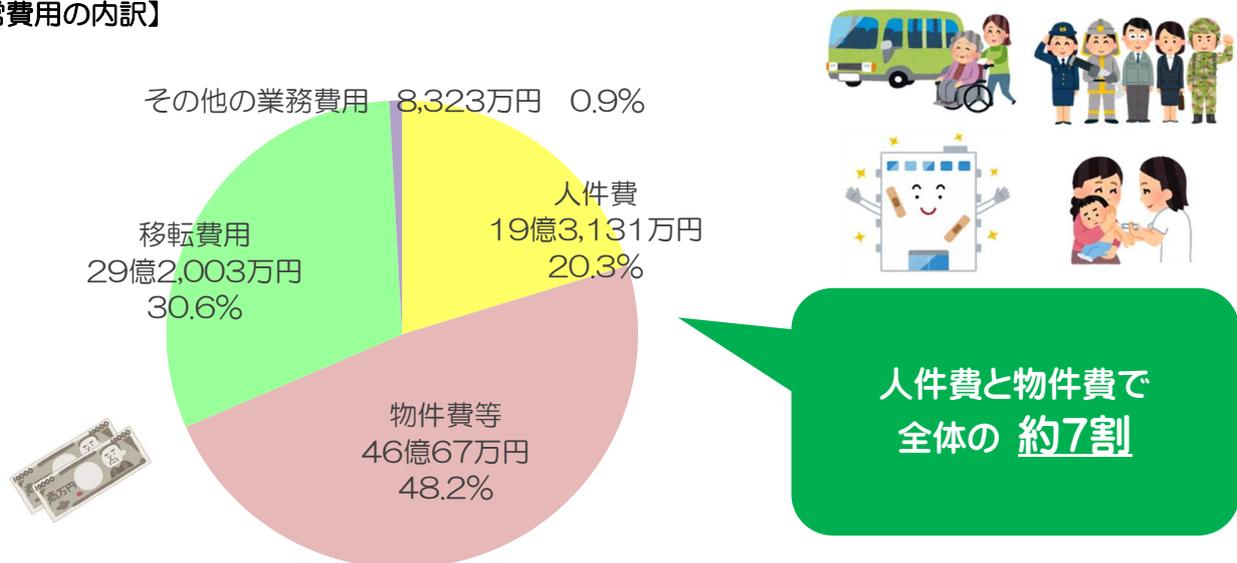
税収や国県からの補助金で賄われることになる

令和5年度行政コスト計算書の概要

【経常費用】 95億3,500万円 (前年度比 ▲3億1,900万円)

「経常費用」における業務費用の①人件費が2億4,100万円減少しました。退職手当引当金繰入額の減少が要因として挙げられます。

【経常費用の内訳】



一般会計等の概要

※金額は総括の百万円単位に合わせているため、端数処理の都合上内訳と計が一致しない箇所があります。

【経常収益】 6億4,500万円（前年度比 400万円）

経常収益（使用料及び手数料等）は、前年度（令和4年度）から比較して増加しました。袋田の滝トンネルの利用料が700万円増加したことや、後期高齢者医療広域連合保険事業受託収入が400万円増加したことなどが要因として挙げられます。

【純行政コスト】 92億2,400万円（前年度比 ▲2,100万円）

経常費用の減少に対し経常収益が増加となったため、純行政コストは前年度より減少しました。

（2）行政コスト計算書を活用した財務分析

★受益者負担の割合 6.8%（前年度比 0.3% 類似団体平均 4.0%）

経常的な行政コストのうち
受益者が負担している割合

- ・類似団体平均の約1.7倍
↳ 町が単独直営で実施している行政サービス（ごみ処理、し尿処理等）が類似団体と比較して多く、使用料及び手数料収入の割合が高いことが要因である
- ・前年度から0.3%の増加
↳ 人件費の減少等により経常費用が減少したことが要因である



一般会計等の概要

※金額は総括の百万円単位に合わせているため、端数処理の都合上内訳と計が一致しない箇所があります。

3 純資産変動計算書

(1) 純資産変動計算書とは

貸借対照表にある純資産が1年間でどのように変化したのかを明らかにするものです。また、純行政コストが当年度の財源（税金等、国県等補助金）によって賄われているかどうかを表しています。

純資産変動計算書の見方

| 純資産変動計算書 (NW) | | | |
|---------------|----------------|----------------|-----------------|
| | 合計 | 固定資産等形成分 | 余剰分(不足分) |
| 期首純資産残高 | 252 億 9,300 万円 | | |
| [純行政コスト▲] | ▲92 億 2,400 万円 | | |
| [財源] | 100 億 9,400 万円 | | |
| 税金等 | 67 億 4,800 万円 | | |
| 国県等補助金 | 33 億 4,600 万円 | | |
| [本年度差額] | 8 億 7,000 万円 | | |
| その他 | ▲500 万円 | | |
| 当期変動額 | 8 億 6,500 万円 | 6 億 9,300 万円 | 1 億 7,200 万円 |
| 期末純資産残高 | 261 億 5,900 万円 | 391 億 2,000 万円 | ▲129 億 6,200 万円 |

純資産を減らすもの

純資産を増やすもの

過去に形成された固定資産の基準日時点の残高 + 流動資産の短期貸付金・基金等残高

基準日時点における将来の必要額
負債を含むため残高は通常▲

貸借対照表の【純資産】の内容

令和5年度純資産変動計算書の概要

【財源】 100 億 9,400 万円（前年度比 11 億 8,400 万円）

純行政コストを賄う財源のうち、税金等については、固定資産税が増加したことにより、2,600 万円の増加となっています。国県等補助金については、廃棄物処理施設災害復旧事業費補助金や旧役場庁舎等物件移転委託金が増加したことにより、11 億 5,800 万円の増加となりました。

一般会計等の概要

※金額は総括の百万円単位に合わせているため、端数処理の都合上内訳と計が一致しない箇所があります。

4 資金収支計算書

(1) 資金収支計算書とは

地方公共団体の1年間の資金収支の増減が、どのような活動により生じたかを示しています。

資金収支計算書の見方

| 資金収支計算書 (CF) | |
|-----------------|--------------------|
| [業務活動収支] | 18億 4,700万円 |
| (1) 業務支出 | ▲83億 3,500万円 |
| (2) 業務収入 | 102億 8,300万円 |
| (3) 臨時支出 | 1億 9,900万円 |
| (4) 臨時収入 | ▲1億 100万円 |
| [投資活動収支] | ▲18億 300万円 |
| (1) 投資活動支出 | ▲26億 7,500万円 |
| (2) 投資活動収入 | 8億 7,200万円 |
| [財務活動収支] | ▲1億 8,800万円 |
| (1) 財務活動支出 | ▲11億 600万円 |
| (2) 財務活動収入 | 9億 1,900万円 |
| 当期資金収支額 | ▲1億 4,400万円 |
| 期首資金残高 | 15億 4,500万円 |
| 期末資金残高 | 14億 100万円 |

行政サービス活動に伴う収入・支出

公共施設整備や基金等の資産形成への支出とその財源になった国県補助金や基金取崩し収入(地方債除く)

地方債の元本償還分の支出と地方債の発行収入など

令和5年度資金収支計算書の概要

【業務活動収支】 18億 4,700万円の増 (前年度比 8億 3,200万円)

国県等補助金収入が大きく増加したことから、収支としても前年度と比較して増加しました。

【投資活動収支】 18億 300万円の減 (前年度比 ▲3億 8,100万円)

国県等補助金収入は増加しましたが、基金取崩し収入の減少や公共施設等整備費支出の増加により、収支としては前年度と比較して減少しました。

【財務活動収支】 1億 8,800万円の減 (前年度比 ▲6億 2,500万円)

市町村役場機能緊急保全事業債の皆減等により地方債等発行収入が減少したため、収支としても前年度と比較して増加しました。

(2) 資金収支計算書を活用した財務分析

★基礎的財政収支 1億2,600万円

(前年度比 7億1,800万円 類似団体平均 4億8,000万円)

プライマリーバランス政策のために必要となる費用が、その時点の税収等どこまで賄われているか

- ・類似団体平均と比べ低い傾向
- ・業務活動収支の黒字分が基金収支の影響を除いた投資活動収支の赤字分を上回り、余剰分を地方債の償還に充てていると言える
- ・過去8年間の推移から、基礎的財政収支はほぼ均衡していると言える

令和5年度決算 町民一人あたりの財務書類

令和6年1月1日現在の住民基本台帳人口 14,952人

貸借対照表

| | | | |
|-------------------------------------|----------------------------|-----------|-------------------|
| | | 資産 | 271万5,000円 |
| | | 負債 | 96万5,500円 |
| 固定資産 250万7,400円 | 負債 96万5,500円 | | |
| …道路・学校・町営住宅などの公共施設、 出資金や特定目的基金など | …借入金など将来負担する金額 | | |
| 流動資産 20万7,600円 | 純資産 174万9,500円 | | |
| …資金、徴税等の未収金、 財政調整基金など | …資産合計から負債を差し引いたもの | | |
| 資産合計 271万5,000円 | 負債・純資産合計 271万5,000円 | | |

行政コスト計算書

純行政コスト **61万6,900円**

| | |
|----------------------------------|------------------|
| 人件費 … 職員の給与など | 12万9,100円 |
| 物件費等 | 30万7,700円 |
| …施設の維持補修費、システム使用料など (うち減価償却費) | 10万5,300円 |
| 移転費用 | 19万5,300円 |
| …マル福などの社会保障給付、各種補助金など | |
| その他の業務費用 | 5,600円 |
| …借入金の支払い利息など | |
| 経常費用 | 63万7,700円 |

資金収支計算書

本年度末資金残高 **9万3,700円**

| |
|-----------------------------------|
| 業務活動収支 12万3,500円 |
| …行政サービスのうち、毎年度継続的に行われる活動に関する資金の収支 |
| 投資活動収支 ▲12万600円 |
| …公共施設の建設、基金の積立て、取崩しなどによる収支 |
| 財務活動収支 ▲1万2,500円 |
| …借入金の借入れや返済などによる収支 |
| 期首資金残高 10万3,300円 |
| 期末資金残高 9万3,700円 |



純資産変動計算書

5年度末純資産 **174万9,500円**

| | | |
|----------------|------------|--------------------------------|
| 令和4年度末純資産 | 169万1,600円 | |
| 純行政コスト | ▲61万6,900円 | ↓ 純資産変動額 5万7,900円 |
| 税収、国・県からの補助金など | 67万5,100円 | |
| 無償取引による資産の増減など | ▲300円 | |
| 令和5年度末純資産 | 174万9,500円 | |

貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

自治体名:大子町

会計:一般会計等

(単位:円)

| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
|---------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
| 固定資産 | 37,490,468,382 | 固定負債 | 13,107,520,489 |
| 有形固定資産 | 33,897,108,289 | 地方債 | 9,963,658,828 |
| 事業用資産 | 18,228,534,737 | 長期未払金 | - |
| 土地 | 4,821,705,504 | 退職手当引当金 | 3,118,325,982 |
| 立木竹 | 156,381,850 | 損失補償等引当金 | - |
| 建物 | 31,965,425,900 | その他 | 25,535,679 |
| 建物減価償却累計額 | -19,852,932,952 | 流動負債 | 1,328,832,380 |
| 工作物 | 2,949,603,163 | 1年内償還予定地方債 | 1,150,362,837 |
| 工作物減価償却累計額 | -1,900,087,128 | 未払金 | - |
| 船舶 | - | 未払費用 | - |
| 船舶減価償却累計額 | - | 前受金 | - |
| 浮標等 | - | 前受収益 | - |
| 浮標等減価償却累計額 | - | 賞与等引当金 | 128,995,099 |
| 航空機 | - | 預り金 | 49,474,444 |
| 航空機減価償却累計額 | - | その他 | - |
| その他 | - | 負債合計 | 14,436,352,869 |
| その他減価償却累計額 | - | 【純資産の部】 | |
| 建設仮勘定 | 88,438,400 | 固定資産等形成分 | 39,120,124,841 |
| インフラ資産 | 15,281,836,770 | 余剰分(不足分) | -12,961,563,828 |
| 土地 | 544,547,618 | | |
| 建物 | - | | |
| 建物減価償却累計額 | - | | |
| 工作物 | 36,609,634,655 | | |
| 工作物減価償却累計額 | -21,948,891,703 | | |
| その他 | - | | |
| その他減価償却累計額 | - | | |
| 建設仮勘定 | 76,546,200 | | |
| 物品 | 2,116,055,911 | | |
| 物品減価償却累計額 | -1,729,319,129 | | |
| 無形固定資産 | 59,182,224 | | |
| ソフトウェア | 59,182,224 | | |
| その他 | - | | |
| 投資その他の資産 | 3,534,177,869 | | |
| 投資及び出資金 | 1,207,142,327 | | |
| 有価証券 | - | | |
| 出資金 | 54,603,000 | | |
| その他 | 1,152,539,327 | | |
| 投資損失引当金 | - | | |
| 長期延滞債権 | 211,625,134 | | |
| 長期貸付金 | 35,440,000 | | |
| 基金 | 2,087,013,431 | | |
| 減債基金 | 1,177,151,785 | | |
| その他 | 909,861,646 | | |
| その他 | - | | |
| 徴収不能引当金 | -7,043,023 | | |
| 流動資産 | 3,104,445,500 | | |
| 現金預金 | 1,450,185,074 | | |
| 未収金 | 25,874,420 | | |
| 短期貸付金 | - | | |
| 基金 | 1,629,656,459 | | |
| 財政調整基金 | 1,629,656,459 | | |
| 減債基金 | - | | |
| 棚卸資産 | - | | |
| その他 | - | | |
| 徴収不能引当金 | -1,270,453 | | |
| 資産合計 | 40,594,913,882 | 純資産合計 | 26,158,561,013 |
| | | 負債及び純資産合計 | 40,594,913,882 |

行政コスト計算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

自治体名: 大子町
会計: 一般会計等

(単位: 円)

| 科目 | 金額 |
|-------------|---------------|
| 経常費用 | 9,535,238,166 |
| 業務費用 | 6,615,203,177 |
| 人件費 | 1,931,305,628 |
| 職員給与費 | 1,631,825,881 |
| 賞与等引当金繰入額 | 128,995,099 |
| 退職手当引当金繰入額 | -157,754,473 |
| その他 | 328,239,121 |
| 物件費等 | 4,600,665,434 |
| 物件費 | 2,722,611,538 |
| 維持補修費 | 303,958,377 |
| 減価償却費 | 1,574,095,519 |
| その他 | - |
| その他の業務費用 | 83,232,115 |
| 支払利息 | 31,930,390 |
| 徴収不能引当金繰入額 | 6,102,150 |
| その他 | 45,199,575 |
| 移転費用 | 2,920,034,989 |
| 補助金等 | 1,327,450,332 |
| 社会保障給付 | 864,751,973 |
| 他会計への繰出金 | 722,183,242 |
| その他 | 5,649,442 |
| 経常収益 | 644,738,850 |
| 使用料及び手数料 | 444,388,936 |
| その他 | 200,349,914 |
| 純経常行政コスト | 8,890,499,316 |
| 臨時損失 | 335,953,562 |
| 災害復旧事業費 | 101,490,900 |
| 資産除売却損 | 227,240,000 |
| 投資損失引当金繰入額 | - |
| 損失補償等引当金繰入額 | - |
| その他 | 7,222,662 |
| 臨時利益 | 2,444,013 |
| 資産売却益 | 2,435,999 |
| その他 | 8,014 |
| 純行政コスト | 9,224,008,865 |

純資産変動計算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

自治体名: 大子町
会計: 一般会計等

(単位: 円)

| 科目 | 合計 | | |
|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| | 固定資産 等形成分 | 余剰分 (不足分) | |
| 前年度末純資産残高 | 25,293,251,319 | 38,426,983,418 | -13,133,732,099 |
| 純行政コスト(△) | -9,224,008,865 | | -9,224,008,865 |
| 財源 | 10,094,372,426 | | 10,094,372,426 |
| 税収等 | 6,748,199,102 | | 6,748,199,102 |
| 国県等補助金 | 3,346,173,324 | | 3,346,173,324 |
| 本年度差額 | 870,363,561 | | 870,363,561 |
| 固定資産等の変動(内部変動) | | 693,195,290 | -693,195,290 |
| 有形固定資産等の増加 | | 2,153,075,220 | -2,153,075,220 |
| 有形固定資産等の減少 | | -1,581,318,186 | 1,581,318,186 |
| 貸付金・基金等の増加 | | 542,746,690 | -542,746,690 |
| 貸付金・基金等の減少 | | -421,308,434 | 421,308,434 |
| 資産評価差額 | - | - | - |
| 無償所管換等 | -53,867 | -53,867 | |
| その他 | -5,000,000 | - | -5,000,000 |
| 本年度純資産変動額 | 865,309,694 | 693,141,423 | 172,168,271 |
| 本年度末純資産残高 | 26,158,561,013 | 39,120,124,841 | -12,961,563,828 |

資金収支計算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

自治体名：大子町
会計：一般会計等

(単位：円)

| 科目 | 金額 |
|-----------------|-----------------------|
| 【業務活動収支】 | |
| 業務支出 | 8,334,880,096 |
| 業務費用支出 | 5,414,845,107 |
| 人件費支出 | 2,083,905,227 |
| 物件費等支出 | 3,253,809,915 |
| 支払利息支出 | 31,930,390 |
| その他の支出 | 45,199,575 |
| 移転費用支出 | 2,920,034,989 |
| 補助金等支出 | 1,327,450,332 |
| 社会保障給付支出 | 864,751,973 |
| 他会計への繰出支出 | 722,183,242 |
| その他の支出 | 5,649,442 |
| 業務収入 | 10,283,465,900 |
| 税収等収入 | 6,741,309,449 |
| 国県等補助金収入 | 2,898,047,324 |
| 使用料及び手数料収入 | 444,682,186 |
| その他の収入 | 199,426,941 |
| 臨時支出 | 101,490,900 |
| 災害復旧事業費支出 | 101,490,900 |
| その他の支出 | - |
| 臨時収入 | - |
| 業務活動収支 | 1,847,094,904 |
| 【投資活動収支】 | |
| 投資活動支出 | 2,675,163,847 |
| 公共施設等整備費支出 | 2,153,075,220 |
| 基金積立金支出 | 465,896,402 |
| 投資及び出資金支出 | 30,992,225 |
| 貸付金支出 | 25,200,000 |
| その他の支出 | - |
| 投資活動収入 | 871,870,438 |
| 国県等補助金収入 | 448,126,000 |
| 基金取崩収入 | 415,308,434 |
| 貸付金元金回収収入 | 6,000,000 |
| 資産売却収入 | 2,436,004 |
| その他の収入 | - |
| 投資活動収支 | -1,803,293,409 |
| 【財務活動収支】 | |
| 財務活動支出 | 1,106,373,846 |
| 地方債償還支出 | 1,098,516,714 |
| その他の支出 | 7,857,132 |
| 財務活動収入 | 918,600,000 |
| 地方債発行収入 | 918,600,000 |
| その他の収入 | - |
| 財務活動収支 | -187,773,846 |
| 本年度資金収支額 | -143,972,351 |
| 前年度末資金残高 | 1,544,682,981 |
| 本年度末資金残高 | 1,400,710,630 |
| 前年度末歳計外現金残高 | 52,172,796 |
| 本年度歳計外現金増減額 | -2,698,352 |
| 本年度末歳計外現金残高 | 49,474,444 |
| 本年度末現金預金残高 | 1,450,185,074 |

I. 重要な会計方針

1. 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア. 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価

ただし、道路、河川、及び水路の敷地は備忘価格 1 円としています。

イ. 昭和 60 年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川、及び水路の敷地は備忘価格 1 円としています。

② 無形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

2. 有価証券等の評価基準及び評価方法

① 市場価格のある有価証券等……………会計年度末における市場価格

② 市場価格がない有価証券等……………取得原価

ただし、市場価格のないものについて、実質価額が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしています。

なお、実質価額の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当するものとしています。

3. 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

4. 引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体（会計）に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上していま

す。

② 徴収不能引当金

過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

③ 退職手当引当金

本年度末に特別職を含む全職員（本年度末退職者を除く）が普通退職した場合の退職手当要支給額に、組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額を加算して計上しております。

④ 損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。

⑤ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

5. リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア. 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

イ. ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

6. 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（3ヶ月以内の短期投資等）を資金の範囲としています。

このうち現金同等物は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

7. その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 消費税等の会計処理

税込方式によっております。

② 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価格が50万円（美術品は300万円）以上の場合に資産として計上しています。

ソフトウェアについても物品の取り扱いに準じています。

③ 資本的支出と修繕費の区分基準

資本的支出と修繕費の区分基準については、金額が 60 万円未満であるとき、又は固定資産の取得価額等のおおむね 10%未満相当額以下であるときに修繕費として処理しています。

II. 重要な会計方針の変更等

該当なし

III. 重要な後発事象

該当なし

IV. 重要な偶発債務

1. 保証債務及び損失補償債務負担の状況

他の団体（会計）の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っています。

| 団体（会計）名 | 確定債務額 | 履行すべき額が確定していない 損失補償債務等 | | 総額 |
|-----------|-------|---------------------------|---------------|------------|
| | | 損失補償等 引当金計上額 | 貸借対照表 未計上額 | |
| 茨城県信用保証協会 | － 千円 | － 千円 | 202,929 千円 | 202,929 千円 |
| 合計 | － 千円 | － 千円 | 202,929 千円 | 202,929 千円 |

V. 追加情報

1. 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

(1) 一般会計等財務書類の対象範囲

一般会計

(2) 出納整理期間

地方自治法第 235 条の 5 に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

- (3) 財務書類の表示金額単位
千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。
- (4) 地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況
- | | | |
|----------|------|---|
| 実質赤字比率 | — | % |
| 連結実質赤字比率 | — | % |
| 実質公債費比率 | 4.0 | % |
| 将来負担比率 | 49.3 | % |
- (5) 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額
- | | | |
|------------|---|----|
| 利子補給に係るもの | — | 千円 |
| P F Iに係るもの | — | 千円 |
- (6) 繰越事業に係る将来の支出予定額
- | | | |
|----------|---------|----|
| 継続費通次繰越額 | | |
| (一般会計) | 2,469 | 千円 |
| 繰越明許費 | | |
| (一般会計) | 438,667 | 千円 |
| 事故繰越額 | | |
| (一般会計) | — | 千円 |
- (7) 過年度の修正事項
過年度の処理に誤りがあったため、本年度において修正を行っています。
この修正により、本年度の貸借対照表において、預り金（歳計外現金）が5,000千円増加し、純資産変動計算書のその他（余剰金）が5,000千円減少しています。

2. 貸借対照表に係る事項

- (1) 売却可能資産の範囲及び内訳

ア. 範囲

売却可能資産の範囲は、普通財産のうち活用が図られていない公共資産を対象としています。

イ. 内訳

| | | | | | |
|-------|--------|----|---|--------|-----|
| 事業用資産 | 20,806 | 千円 | (| 20,806 | 千円) |
| 土地 | 20,806 | 千円 | (| 20,806 | 千円) |
| 立木竹 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 建物 | — | 千円 | (| — | 千円) |

| | | | |
|--------|------|---|-------|
| 工作物 | — 千円 | (| — 千円) |
| 船舶 | — 千円 | (| — 千円) |
| 浮標等 | — 千円 | (| — 千円) |
| 航空機 | — 千円 | (| — 千円) |
| その他 | — 千円 | (| — 千円) |
| インフラ資産 | — 千円 | (| — 千円) |
| 土地 | — 千円 | (| — 千円) |
| 建物 | — 千円 | (| — 千円) |
| 工作物 | — 千円 | (| — 千円) |
| その他 | — 千円 | (| — 千円) |
| 物品 | — 千円 | (| — 千円) |

令和6年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

売却可能価額は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律における評価方法によつています。

上記の（ ）内の金額は貸借対照表における簿価を記載しています。

(2) 減債基金に係る積立不足額

— 千円

(3) 基金借入金（繰替運用）

該当なし

(4) 臨時財政対策債

臨時財政対策債は、地方交付税として交付するべき財源が不足した場合に、市において不足額を補てんするため発行する地方債のことです。

臨時財政対策債の元利償還金相当額は、その全額が後年度地方交付税の基準財政需要額に算入されます

貸借対照表計上の地方債当期末残高 11,114,022 千円のうち、臨時財政対策債の当期末残高は 2,962,531 千円となっております。

(5) 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額

7,169,724 千円

(6) 将来負担に関する情報（地方公共団体財政健全化法における将来負担比率の算定要素）

| | | | |
|----|-------------------------------|------------|----|
| イ. | 標準財政規模 | 6,417,776 | 千円 |
| ロ. | 元利償還金・準元利償還金に係る基準財政 需要額算入額 | 890,054 | 千円 |
| ハ. | 将来負担額 | 15,100,672 | 千円 |
| ニ. | 充当可能基金額 | 4,031,993 | 千円 |
| ホ. | 特定財源見込額 | 39,283 | 千円 |
| ヘ. | 地方債現在高等に係る基準財政需要額算入 見込額 | 8,303,998 | 千円 |

(7) 地方自治法 234 条の 3 に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務
金額

25,536 千円

3. 行政コスト計算書に係る事項

該当なし

4. 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容

① 固定資産等形成分

固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金などを加えた額を計上して
います。

② 余剰分（不足分）

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

5. 資金収支計算書に係る事項

(1) 基礎的財政収支

126,320 千円

(2) 既存の決算情報との関連性

| | 収入（歳入） | 支出（歳出） |
|----------|---------------|---------------|
| 歳入歳出決算書 | 13,618,619 千円 | 12,217,909 千円 |
| 繰越金に伴う差額 | △1,544,683 千円 | －千円 |
| 資金収支計算書 | 12,073,936 千円 | 12,217,909 千円 |

繰越金については、歳入歳出決算書では収入として計上しますが、公会計では計上しないため、その分だけ相違します。

(3) 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

| | | |
|----------------|------------|----|
| 資金収支計算書の業務活動収支 | 1,847,095 | 千円 |
| 減価償却費 | △1,574,096 | 千円 |
| 減損損失 | — | 千円 |
| 徴収不能引当金の増減額 | 1,470 | 千円 |
| 退職手当引当金の増減額 | 157,754 | 千円 |
| 賞与引当金の増減額 | △5,155 | 千円 |
| 未収金の増減額 | △53 | 千円 |
| 固定資産除売却損益 | 2,436 | 千円 |
| 資本的国県等補助金等 | 448,126 | 千円 |
| 未払費用の増減額 | — | 千円 |
| その他の資産・負債の増減額 | △7,215 | 千円 |
| 純資産変動計算書の本年度差額 | 870,364 | 千円 |

(4) 一時借入金

資金収支計算書上、一時借入金の増減額は含まれておりません。

なお、一時借入金の限度額及び利子額は次のとおりです。

一時借入金の限度額 700,000 千円

貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

自治体名: 大子町

会計: 全体会計

(単位: 円)

| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
|---------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
| 固定資産 | 41,235,169,927 | 固定負債 | 15,437,751,290 |
| 有形固定資産 | 38,256,991,814 | 地方債 | 11,197,917,972 |
| 事業用資産 | 18,228,534,737 | 長期未払金 | - |
| 土地 | 4,821,705,504 | 退職手当引当金 | 3,544,418,597 |
| 立木竹 | 156,381,850 | 損失補償等引当金 | - |
| 建物 | 31,965,425,900 | その他 | 695,414,721 |
| 建物減価償却累計額 | -19,852,932,952 | 流動負債 | 1,615,389,194 |
| 工作物 | 2,949,603,163 | 1年内償還予定地方債 | 1,261,407,526 |
| 工作物減価償却累計額 | -1,900,087,128 | 未払金 | 159,394,243 |
| 船舶 | - | 未払費用 | - |
| 船舶減価償却累計額 | - | 前受金 | - |
| 浮標等 | - | 前受収益 | - |
| 浮標等減価償却累計額 | - | 賞与等引当金 | 144,693,541 |
| 航空機 | - | 預り金 | 49,893,884 |
| 航空機減価償却累計額 | - | その他 | - |
| その他 | - | 負債合計 | 17,053,140,484 |
| その他減価償却累計額 | - | 【純資産の部】 | |
| 建設仮勘定 | 88,438,400 | 固定資産等形成分 | 42,864,826,386 |
| インフラ資産 | 19,265,886,482 | 余剰分(不足分) | -14,517,907,936 |
| 土地 | 659,414,005 | | |
| 建物 | 196,249,841 | | |
| 建物減価償却累計額 | -117,033,313 | | |
| 工作物 | 45,062,421,225 | | |
| 工作物減価償却累計額 | -26,611,711,476 | | |
| その他 | - | | |
| その他減価償却累計額 | - | | |
| 建設仮勘定 | 76,546,200 | | |
| 物品 | 3,648,045,749 | | |
| 物品減価償却累計額 | -2,885,475,154 | | |
| 無形固定資産 | 59,182,224 | | |
| ソフトウェア | 59,182,224 | | |
| その他 | - | | |
| 投資その他の資産 | 2,918,995,889 | | |
| 投資及び出資金 | 57,283,713 | | |
| 有価証券 | - | | |
| 出資金 | 54,603,000 | | |
| その他 | 2,680,713 | | |
| 投資損失引当金 | - | | |
| 長期延滞債権 | 250,945,246 | | |
| 長期貸付金 | 35,440,000 | | |
| 基金 | 2,587,673,745 | | |
| 減債基金 | 1,177,151,785 | | |
| その他 | 1,410,521,960 | | |
| その他 | - | | |
| 徴収不能引当金 | -12,346,815 | | |
| 流動資産 | 4,164,889,007 | | |
| 現金預金 | 2,417,579,309 | | |
| 未収金 | 98,378,353 | | |
| 短期貸付金 | - | | |
| 基金 | 1,629,656,459 | | |
| 財政調整基金 | 1,629,656,459 | | |
| 減債基金 | - | | |
| 棚卸資産 | 25,467,165 | | |
| その他 | - | | |
| 徴収不能引当金 | -6,192,279 | | |
| 資産合計 | 45,400,058,934 | 純資産合計 | 28,346,918,450 |
| | | 負債及び純資産合計 | 45,400,058,934 |

行政コスト計算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

自治体名: 大子町

会計: 全体会計

(単位: 円)

| 科目 | 金額 |
|-------------|----------------|
| 経常費用 | 14,260,847,964 |
| 業務費用 | 7,486,811,422 |
| 人件費 | 2,200,558,939 |
| 職員給与費 | 1,827,336,623 |
| 賞与等引当金繰入額 | 144,693,541 |
| 退職手当引当金繰入額 | -108,756,110 |
| その他 | 337,284,885 |
| 物件費等 | 5,097,070,446 |
| 物件費 | 2,992,267,903 |
| 維持補修費 | 351,389,024 |
| 減価償却費 | 1,753,413,519 |
| その他 | - |
| その他の業務費用 | 189,182,037 |
| 支払利息 | 43,406,799 |
| 徴収不能引当金繰入額 | 12,193,551 |
| その他 | 133,581,687 |
| 移転費用 | 6,774,036,542 |
| 補助金等 | 5,890,234,567 |
| 社会保障給付 | 876,454,033 |
| 他会計への繰出金 | - |
| その他 | 7,347,942 |
| 経常収益 | 1,050,965,320 |
| 使用料及び手数料 | 837,997,082 |
| その他 | 212,968,238 |
| 純経常行政コスト | 13,209,882,644 |
| 臨時損失 | 336,532,982 |
| 災害復旧事業費 | 101,490,900 |
| 資産除売却損 | 227,240,000 |
| 投資損失引当金繰入額 | - |
| 損失補償等引当金繰入額 | - |
| その他 | 7,802,082 |
| 臨時利益 | 2,870,973 |
| 資産売却益 | 2,435,999 |
| その他 | 434,974 |
| 純行政コスト | 13,543,544,653 |

純資産変動計算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

自治体名: 大子町

会計: 全体会計

(単位: 円)

| 科目 | 合計 | | |
|----------------|-----------------|----------------|-----------------|
| | 固定資産 等形成分 | 余剰分 (不足分) | |
| 前年度末純資産残高 | 27,467,770,198 | 42,049,526,829 | -14,581,756,631 |
| 純行政コスト(△) | -13,543,544,653 | | -13,543,544,653 |
| 財源 | 14,427,569,797 | | 14,427,569,797 |
| 税収等 | 8,444,587,348 | | 8,444,587,348 |
| 国県等補助金 | 5,982,982,449 | | 5,982,982,449 |
| 本年度差額 | 884,025,144 | | 884,025,144 |
| 固定資産等の変動(内部変動) | | 815,353,424 | -815,353,424 |
| 有形固定資産等の増加 | | 2,427,977,899 | -2,427,977,899 |
| 有形固定資産等の減少 | | -1,771,583,036 | 1,771,583,036 |
| 貸付金・基金等の増加 | | 582,761,292 | -582,761,292 |
| 貸付金・基金等の減少 | | -423,802,731 | 423,802,731 |
| 資産評価差額 | - | - | |
| 無償所管換等 | 123,108 | 123,108 | |
| その他 | -5,000,000 | -176,975 | -4,823,025 |
| 本年度純資産変動額 | 879,148,252 | 815,299,557 | 63,848,695 |
| 本年度末純資産残高 | 28,346,918,450 | 42,864,826,386 | -14,517,907,936 |

資金収支計算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

自治体名: 大子町

会計: 全体会計

(単位: 円)

| 科目 | 金額 |
|-----------------|-----------------------|
| 【業務活動収支】 | |
| 業務支出 | 12,828,666,674 |
| 業務費用支出 | 6,054,630,132 |
| 人件費支出 | 2,302,865,407 |
| 物件費等支出 | 3,571,610,346 |
| 支払利息支出 | 43,406,799 |
| その他の支出 | 136,747,580 |
| 移転費用支出 | 6,774,036,542 |
| 補助金等支出 | 5,890,234,567 |
| 社会保障給付支出 | 876,454,033 |
| 他会計への繰出支出 | - |
| その他の支出 | 7,347,942 |
| 業務収入 | 14,993,433,246 |
| 税収等収入 | 8,426,515,527 |
| 国県等補助金収入 | 5,493,493,078 |
| 使用料及び手数料収入 | 850,758,361 |
| その他の収入 | 222,666,280 |
| 臨時支出 | 102,070,320 |
| 災害復旧事業費支出 | 101,490,900 |
| その他の支出 | 579,420 |
| 臨時収入 | 426,960 |
| 業務活動収支 | 2,063,123,212 |
| 【投資活動収支】 | |
| 投資活動支出 | 2,986,827,461 |
| 公共施設等整備費支出 | 2,425,642,154 |
| 基金積立金支出 | 535,985,307 |
| 投資及び出資金支出 | - |
| 貸付金支出 | 25,200,000 |
| その他の支出 | - |
| 投資活動収入 | 943,195,159 |
| 国県等補助金収入 | 512,968,000 |
| 基金取崩収入 | 415,308,434 |
| 貸付金元金回収収入 | 6,000,000 |
| 資産売却収入 | 2,436,004 |
| その他の収入 | 6,482,721 |
| 投資活動収支 | -2,043,632,302 |
| 【財務活動収支】 | |
| 財務活動支出 | 1,215,353,106 |
| 地方債償還支出 | 1,207,495,974 |
| その他の支出 | 7,857,132 |
| 財務活動収入 | 1,020,300,000 |
| 地方債発行収入 | 1,020,300,000 |
| その他の収入 | - |
| 財務活動収支 | -195,053,106 |
| 本年度資金収支額 | -175,562,196 |
| 前年度末資金残高 | 2,543,667,061 |
| 本年度末資金残高 | 2,368,104,865 |
| 前年度末歳計外現金残高 | 52,172,796 |
| 本年度歳計外現金増減額 | -2,698,352 |
| 本年度末歳計外現金残高 | 49,474,444 |
| 本年度末現金預金残高 | 2,417,579,309 |

I. 重要な会計方針

1. 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア. 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価

ただし、道路、河川、及び水路の敷地は備忘価格 1 円としています。

イ. 昭和 60 年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川、及び水路の敷地は備忘価格 1 円としています。

② 無形固定資産……………原則として取得原価

ただし、取得原価が不明なものは再調達原価としています。

2. 有価証券等の評価基準及び評価方法

① 市場価格のある有価証券等……………会計年度末における市場価格

② 市場価格がない有価証券等……………取得原価

ただし、市場価格のないものについて、実質価額が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしています。

なお、実質価額の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当するものとしています。

3. 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

4. 引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体（会計）に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。

② 徴収不能引当金

過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

③ 退職手当引当金

本年度末に特別職を含む全職員（本年度末退職者を除く）が普通退職した場合の退職手当要支給額に、組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額を加算して計上しております。

④ 損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。

⑤ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

5. リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア. 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

イ. ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

6. 連結資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（3ヶ月以内の短期投資等）を資金の範囲としています。

このうち現金同等物は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

7. 消費税等の会計処理

税込方式によっております。

ただし、水道会計については、税抜方式によっております。

II. 重要な会計方針の変更等

該当なし

III. 重要な後発事象

該当なし

IV. 重要な偶発債務

1. 保証債務及び損失補償債務負担の状況

他の団体（会計）の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っています。

| 団体（会計）名 | 確定債務額 | 履行すべき額が確定していない 損失補償債務等 | | 総額 |
|-----------|-------|---------------------------|---------------|------------|
| | | 損失補償等 引当金計上額 | 貸借対照表 未計上額 | |
| 茨城県信用保証協会 | － 千円 | － 千円 | 202,929 千円 | 202,929 千円 |
| 合計 | － 千円 | － 千円 | 202,929 千円 | 202,929 千円 |

V. 追加情報

1. 連結対象団体（会計）

| 会計名 | 区分 | 連結の方法 | 比例連結割合 |
|--------------|----------|-------|--------|
| 国民健康保険事業特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | － |
| 後期高齢者医療特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | － |
| 介護保険会計 | 特別会計 | 全部連結 | － |
| 介護サービス事業特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | － |
| 浄化槽整備事業特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | － |
| 水道事業会計 | 地方公営企業会計 | 全部連結 | － |

連結の方法は次のとおりです。

特別会計および地方公営企業会計は、すべて全部連結の対象としています。

2. 出納整理期間

地方自治法第 235 条の 5 に基づき、出納整理期間を設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

なお、出納整理期間を設けていない団体（会計）と出納整理期間を設けている団体（会計）との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。

3. 財務書類の表示金額単位

千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

4. 売却可能資産の範囲及び内訳

ア. 範囲

売却可能資産の範囲は、普通財産のうち活用が図られていない公共資産を対象としています。

イ. 内訳

| | | | | | |
|--------|--------|----|---|--------|-----|
| 事業用資産 | 20,806 | 千円 | (| 20,806 | 千円) |
| 土地 | 20,806 | 千円 | (| 20,806 | 千円) |
| 立木竹 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 建物 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 工作物 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 船舶 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 浮標等 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 航空機 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| その他 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| インフラ資産 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 土地 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 建物 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 工作物 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| その他 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 物品 | — | 千円 | (| — | 千円) |

令和6年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

売却可能価額は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律における評価方法によつています。

上記の（ ）内の金額は貸借対照表における簿価を記載しています。

連結貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

自治体名: 大子町

会計: 連結会計

(単位: 円)

| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
|---------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
| 固定資産 | 41,375,599,791 | 固定負債 | 15,438,617,926 |
| 有形固定資産 | 38,354,669,385 | 地方債等 | 11,197,917,972 |
| 事業用資産 | 18,322,776,831 | 長期未払金 | - |
| 土地 | 4,834,383,973 | 退職手当引当金 | 3,545,285,233 |
| 土地減損損失累計額 | - | 損失補償等引当金 | - |
| 立木竹 | 156,381,850 | その他 | 695,414,721 |
| 立木竹減損損失累計額 | - | 流動負債 | 1,708,537,984 |
| 建物 | 32,169,115,929 | 1年内償還予定地方債等 | 1,261,407,526 |
| 建物減価償却累計額 | -19,975,059,356 | 未払金 | 206,263,997 |
| 建物減損損失累計額 | - | 未払費用 | 33,227,192 |
| 工作物 | 2,949,603,163 | 前受金 | 558,700 |
| 工作物減価償却累計額 | -1,900,087,128 | 前受収益 | - |
| 工作物減損損失累計額 | - | 賞与等引当金 | 144,801,349 |
| 船舶 | - | 預り金 | 58,229,220 |
| 船舶減価償却累計額 | - | その他 | 4,050,000 |
| 船舶減損損失累計額 | - | 負債合計 | 17,147,155,910 |
| 浮標等 | - | 【純資産の部】 | |
| 浮標等減価償却累計額 | - | 固定資産等形成分 | 43,110,599,329 |
| 浮標等減損損失累計額 | - | 余剰分(不足分) | -14,451,015,919 |
| 航空機 | - | 他団体出資等分 | - |
| 航空機減価償却累計額 | - | | |
| 航空機減損損失累計額 | - | | |
| その他 | - | | |
| その他減価償却累計額 | - | | |
| その他減損損失累計額 | - | | |
| 建設仮勘定 | 88,438,400 | | |
| インフラ資産 | 19,265,886,482 | | |
| 土地 | 659,414,005 | | |
| 土地減損損失累計額 | - | | |
| 建物 | 196,249,841 | | |
| 建物減価償却累計額 | -117,033,313 | | |
| 建物減損損失累計額 | - | | |
| 工作物 | 45,062,421,225 | | |
| 工作物減価償却累計額 | -26,611,711,476 | | |
| 工作物減損損失累計額 | - | | |
| その他 | - | | |
| その他減価償却累計額 | - | | |
| その他減損損失累計額 | - | | |
| 建設仮勘定 | 76,546,200 | | |
| 物品 | 3,660,628,437 | | |
| 物品減価償却累計額 | -2,894,622,365 | | |
| 物品減損損失累計額 | - | | |
| 無形固定資産 | 59,368,009 | | |
| ソフトウェア | 59,368,009 | | |
| その他 | - | | |
| 投資その他の資産 | 2,961,562,397 | | |
| 投資及び出資金 | 55,285,174 | | |
| 有価証券 | - | | |
| 出資金 | 52,603,000 | | |
| その他 | 2,682,174 | | |
| 長期延滞債権 | 251,594,543 | | |
| 長期貸付金 | 35,440,000 | | |
| 基金 | 2,631,630,651 | | |
| 減債基金 | 1,177,151,785 | | |
| その他 | 1,454,478,866 | | |
| その他 | - | | |
| 徴収不能引当金 | -12,387,971 | | |
| 流動資産 | 4,431,139,529 | | |
| 現金預金 | 2,542,076,925 | | |
| 未収金 | 105,768,153 | | |
| 短期貸付金 | - | | |
| 基金 | 1,734,999,538 | | |
| 財政調整基金 | 1,734,999,538 | | |
| 減債基金 | - | | |
| 棚卸資産 | 38,240,517 | | |
| その他 | 16,278,110 | | |
| 徴収不能引当金 | -6,223,714 | | |
| 繰延資産 | - | 純資産合計 | 28,659,583,410 |
| 資産合計 | 45,806,739,320 | 負債及び純資産合計 | 45,806,739,320 |

連結行政コスト計算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

自治体名: 大子町

会計: 連結会計

(単位: 円)

| 科目 | 金額 |
|-------------|----------------|
| 経常費用 | 17,014,524,199 |
| 業務費用 | 8,172,820,297 |
| 人件費 | 2,561,610,137 |
| 職員給与費 | 2,007,380,078 |
| 賞与等引当金繰入額 | 144,801,349 |
| 退職手当引当金繰入額 | -108,777,721 |
| その他 | 518,206,431 |
| 物件費等 | 5,330,380,041 |
| 物件費 | 2,954,608,662 |
| 維持補修費 | 365,721,720 |
| 減価償却費 | 1,757,837,691 |
| その他 | 252,211,968 |
| その他の業務費用 | 280,830,119 |
| 支払利息 | 43,406,799 |
| 徴収不能引当金繰入額 | 12,228,998 |
| その他 | 225,194,322 |
| 移転費用 | 8,841,703,902 |
| 補助金等 | 7,953,749,358 |
| 社会保障給付 | 876,454,033 |
| その他 | 11,500,511 |
| 経常収益 | 1,587,404,942 |
| 使用料及び手数料 | 842,110,789 |
| その他 | 745,294,153 |
| 純経常行政コスト | 15,427,119,257 |
| 臨時損失 | 336,532,982 |
| 災害復旧事業費 | 101,490,900 |
| 資産除売却損 | 227,240,000 |
| 損失補償等引当金繰入額 | - |
| その他 | 7,802,082 |
| 臨時利益 | 2,870,973 |
| 資産売却益 | 2,435,999 |
| その他 | 434,974 |
| 純行政コスト | 15,760,781,266 |

連結純資産変動計算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

自治体名: 大子町

会計: 連結会計

(単位: 円)

| 科目 | 合計 | 固定資産 等形成分 | 余剰分 (不足分) | 他団体出資等分 |
|----------------|-----------------|----------------|-----------------|---------|
| 前年度末純資産残高 | 27,813,497,121 | 42,278,129,812 | -14,464,632,691 | - |
| 純行政コスト(△) | -15,760,781,266 | | -15,760,781,266 | - |
| 財源 | 16,612,508,317 | | 16,612,508,317 | - |
| 税収等 | 9,511,897,395 | | 9,511,897,395 | - |
| 国県等補助金 | 7,100,610,922 | | 7,100,610,922 | - |
| 本年度差額 | 851,727,051 | | 851,727,051 | - |
| 固定資産等の変動(内部変動) | | 826,749,852 | -826,749,852 | |
| 有形固定資産等の増加 | | 2,441,729,126 | -2,441,729,126 | |
| 有形固定資産等の減少 | | -1,776,320,021 | 1,776,320,021 | |
| 貸付金・基金等の増加 | | 604,733,729 | -604,733,729 | |
| 貸付金・基金等の減少 | | -443,392,982 | 443,392,982 | |
| 資産評価差額 | - | - | | |
| 無償所管換等 | 123,108 | 123,108 | | |
| 他団体出資等分の増加 | | | - | - |
| 他団体出資等分の減少 | | | - | - |
| 比例連結割合変更に伴う差額 | -763,869 | 5,773,533 | -6,537,402 | - |
| その他 | -5,000,001 | -176,976 | -4,823,025 | - |
| 本年度純資産変動額 | 846,086,289 | 832,469,517 | 13,616,772 | - |
| 本年度末純資産残高 | 28,659,583,410 | 43,110,599,329 | -14,451,015,919 | - |

連結資金収支計算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

自治体名：大子町

会計：連結会計

(単位：円)

| 科目 | 金額 |
|-----------------|----------------|
| 【業務活動収支】 | |
| 業務支出 | 15,580,562,625 |
| 業務費用支出 | 6,738,858,723 |
| 人件費支出 | 2,663,780,663 |
| 物件費等支出 | 3,672,839,975 |
| 支払利息支出 | 173,856,196 |
| その他の支出 | 228,381,889 |
| 移転費用支出 | 8,841,703,902 |
| 補助金等支出 | 7,953,749,358 |
| 社会保障給付支出 | 876,454,033 |
| その他の支出 | 11,500,511 |
| 業務収入 | 17,704,051,050 |
| 税込等収入 | 9,493,825,574 |
| 国県等補助金収入 | 6,611,121,551 |
| 使用料及び手数料収入 | 854,872,068 |
| その他の収入 | 744,231,857 |
| 臨時支出 | 102,070,320 |
| 災害復旧事業費支出 | 101,490,900 |
| その他の支出 | 579,420 |
| 臨時収入 | 426,960 |
| 業務活動収支 | 2,021,845,065 |
| 【投資活動収支】 | |
| 投資活動支出 | 3,022,542,404 |
| 公共施設等整備費支出 | 2,439,393,381 |
| 基金積立金支出 | 557,948,719 |
| 投資及び出資金支出 | 304 |
| 貸付金支出 | 25,200,000 |
| その他の支出 | - |
| 投資活動収入 | 963,091,086 |
| 国県等補助金収入 | 512,968,000 |
| 基金取崩収入 | 434,891,223 |
| 貸付金元金回収収入 | 6,000,000 |
| 資産売却収入 | 2,748,816 |
| その他の収入 | 6,483,047 |
| 投資活動収支 | -2,059,451,318 |
| 【財務活動収支】 | |
| 財務活動支出 | 1,214,492,091 |
| 地方債等償還支出 | 1,207,495,974 |
| その他の支出 | 6,996,117 |
| 財務活動収入 | 1,024,701,204 |
| 地方債等発行収入 | 1,020,300,000 |
| その他の収入 | 4,401,204 |
| 財務活動収支 | -189,790,887 |
| 本年度資金収支額 | -227,397,140 |
| 前年度末資金残高 | 2,726,484,915 |
| 比例連結割合変更に伴う差額 | -6,486,271 |
| 本年度末資金残高 | 2,492,601,504 |
| 前年度末歳計外現金残高 | 52,173,471 |
| 本年度歳計外現金増減額 | -2,698,050 |
| 本年度末歳計外現金残高 | 49,475,421 |
| 本年度末現金預金残高 | 2,542,076,925 |

I. 重要な会計方針

1. 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア. 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価

ただし、道路、河川、及び水路の敷地は備忘価格 1 円としています。

イ. 昭和 60 年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川、及び水路の敷地は備忘価格 1 円としています。

② 無形固定資産……………原則として取得原価

ただし、取得原価が不明なものは再調達原価としています。

なお、一部の連結対象団体においては、原則、取得原価としています。

2. 有価証券等の評価基準及び評価方法

① 市場価格のある有価証券等……………会計年度末における市場価格

② 市場価格がない有価証券等……………取得原価

ただし、市場価格のないものについて、実質価額が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしています。

なお、実質価額の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当するものとしています。

3. 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

ただし、一部の連結対象団体については定率法によっています。

② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

4. 引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

ただし、一部の連結対象団体においては、法人税法に規定する法定繰入率に基づく繰

入限度額によっています。

② 退職手当引当金

本年度末に特別職を含む全職員（本年度末退職者を除く）が普通退職した場合の退職手当要支給額に、組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額を加算して計上しております。

③ 損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。

④ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

5. リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア. 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

イ. ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

6. 連結資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（3ヶ月以内の短期投資等）を資金の範囲としています。

このうち現金同等物は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

7. 消費税等の会計処理

税込方式によっております。

ただし、一部の連結対象団体（会計）については、税抜方式によっています。

II. 重要な会計方針の変更等

該当なし

III. 重要な後発事象

該当なし

IV. 重要な偶発債務

1. 保証債務及び損失補償債務負担の状況

他の団体（会計）の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っています。

| 団体（会計）名 | 確定債務額 | 履行すべき額が確定していない 損失補償債務等 | | 総額 |
|-----------|-------|---------------------------|---------------|------------|
| | | 損失補償等 引当金計上額 | 貸借対照表 未計上額 | |
| 茨城県信用保証協会 | — 千円 | — 千円 | 202,929 千円 | 202,929 千円 |
| 合計 | — 千円 | — 千円 | 202,929 千円 | 202,929 千円 |

V. 追加情報

1. 連結対象団体（会計）

| 団体名 | 区分 | 連結の方法 | 比例連結割合 |
|----------------------|-----------------|-------|---------------------------|
| 茨城県市町村総合事務組合 | 一部事務組合・ 広域連合 | 比例連結 | 一般会計等 2.16% 特別会計 3.39% |
| 茨城県後期高齢者医療広域連合 | 一部事務組合・ 広域連合 | 比例連結 | 0.72% |
| 茨城租税債権管理機構 | 一部事務組合・ 広域連合 | 比例連結 | 0.64% |
| 一般財団法人 大子町振興公社 | 第三セクター等 | 全部連結 | — |
| 一般社団法人 大子町特産品流通公社 | 第三セクター等 | 全部連結 | — |

※「茨城北農業共済事務組合」は令和3年度をもって解散となりました。

連結の方法は次のとおりです。

- ① 一部事務組合・広域連合は、各構成団体の経費負担割合等に基づき比例連結の対象としています。
- ② 第三セクター等は、出資割合等が50%を超える団体（出資割合等が50%以下であっても業務運営に実質的に主導的な立場を確保している団体を含みます。）は、全部連結の対象としています。また、いずれの地方公共団体にとっても全部連結の対象とならない第三セクター等については、出資割合等や活動実績等に応じて、比例連結の対象としています。ただし、出資割合が25%未満であって、損失補償を付している等の重要性がない場合は、比例連結の対象としていない場合があります。

2. 出納整理期間

地方自治法第 235 条の 5 に基づき、出納整理期間を設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

なお、出納整理期間を設けていない団体（会計）と出納整理期間を設けている団体（会計）との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。

3. 財務書類の表示金額単位

千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

4. 売却可能資産の範囲及び内訳

ア. 範囲

売却可能資産の範囲は、普通財産のうち活用が図られていない公共資産を対象としています。

イ. 内訳

| | | | | | |
|--------|--------|----|---|--------|-----|
| 事業用資産 | 26,806 | 千円 | (| 26,806 | 千円) |
| 土地 | 26,806 | 千円 | (| 26,806 | 千円) |
| 立木竹 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 建物 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 工作物 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 船舶 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 浮標等 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 航空機 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| その他 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| インフラ資産 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 土地 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 建物 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 工作物 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| その他 | — | 千円 | (| — | 千円) |
| 物品 | — | 千円 | (| — | 千円) |

令和 6 年 3 月 31 日時点における売却可能価額を記載しています。

売却可能価額は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律における評価方法によっています。

上記の（ ）内の金額は貸借対照表における簿価を記載しています。